

61 伊万里湾

いまりわん

Imari Wan

海域の概要

本湾は、佐賀県と長崎県の県境に存在する湾で、湾内には大小多数の島々が点在します。湾奥には伊万里港があり、天然の良港となっています。湾内ではマダイなどの養殖が行われています。



Specification

諸元

湾口幅：4.2 km

面積：120 km²

湾内最大水深：56 m

湾口最大水深：56 m

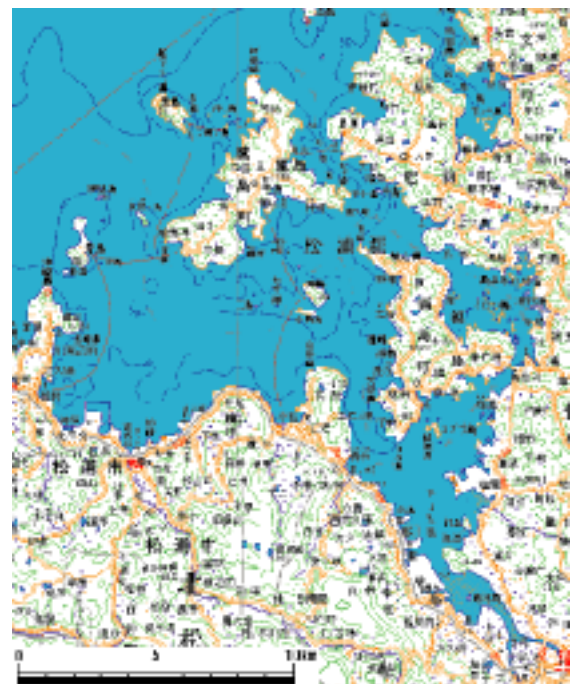
閉鎖度指標：2.6 1

備考：環境基準類型指定水域

Location

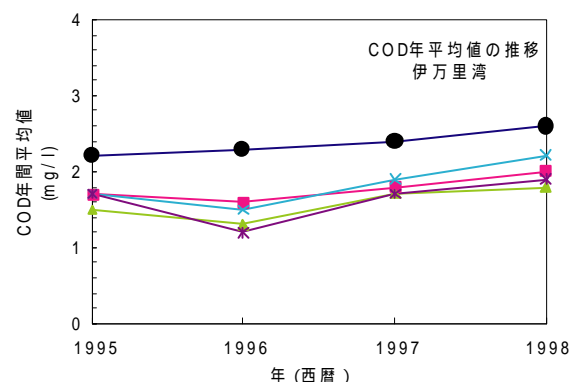
範囲または位置

佐賀県東松浦郡肥前町宮崎鼻と長崎県北松浦郡鷹島町小浦崎を結ぶ線、同町女瀬崎と松浦市青島東端を結ぶ線、同島南西端と松浦市津崎鼻を結ぶ線及び陸岸により囲まれた海域。



環境

伊万里湾は奥深い湾で、また、湾内に鷹島、福島、青島、飛島などの島を持つため、海水の交換が悪く、全体に水質悪化が進んでいます。COD年平均値は、 2 mg/l 程度で推移しており、年々高い値を示す傾向にあります。湾内では度々有害プランクトンの赤潮が発生しており、平成11年8月にはコックロディニウム赤潮による漁業被害が起こっています。



自然

伊万里湾は深く入り込んだ湾に大小の島々が浮かぶ景色の良い湾で、その昔、空海(弘法大師)が、その眺めのあまりの素晴らしさに筆を投げて、しばし休養したとされ、湾の東部沿岸は玄海国定公園に指定されています。

湾口付近の岩礁部や湾内に浮かぶ島の周りには、ホンダワラ類やアラメの藻場が分布し、最も湾奥の伊万里川河口には干潟も発達しています。

この干潟には、生きた化石といわれるカブトガニが生息しています。伊万里湾は、カブトガニの日本一の繁殖地域と言われています。6月下旬から8月中旬の大潮の日を中心に、木須町の多々良海岸で全国でもまれなカブトガニの産卵の様子を見ることができます。ところが、産卵にやってくる「つがい数」が昭和61年から平成4年まで急激に減少し、平成5年から回復の兆しを見せていましたが、平成7年をピークに再び減少しています。



生きた化石カブトガニ

文化歴史

伊万里焼は、遡ること遠く江戸時代、鍋島藩の御用窯として、その卓越した技法を守るため、大川内山に優秀な細工人や画工を集め、色鍋島など当時としては技術の粋を結集させて製陶にあたらせたのが始まりです。春に「春の窯元市」、秋に「鍋島藩窯秋祭り」が開催されます。

産業

伊万里湾では様々な魚介類を対象とした小型底引き網や刺網等の他、マダイやハマチ、真珠、クルマエビ等の養殖も盛んで、また、ナマコやカキなども多く水揚げされています。

伊万里市は、北部九州の西部に位置し、天然の良港伊万里湾を抱く人口約6万人、面積 254.94 km^2 の市で、佐賀県下で最も広い市域を有しています。

また、伊万里港は古くは「古伊万里」の積出港として、また、石炭産業全盛期には石炭の積出港として栄え、近年では伊万里湾総合開発を軸に大規模な臨海工業団地を造成し、造船、IC関連産業、水産加工業等の集積により近代的な工業港として発展しています。



伊万里焼